

旅行報告書

会派名 無限21

会派代表者 田中 睦

令和元年6月11日

旅行者氏名	旅行者氏名
藤本 壽子	

下記の用務のため旅行しましたので報告します。

- 1 期間 令和元年5月28日(火曜日)から
令和元年5月29日(水曜日)まで

- 2 旅行先及び用務

旅行先	目的
鹿児島県大島郡伊仙町	長寿・子宝のまち伊仙町の地域特性と実施している諸施策の取り組みについて

無限21視察報告

視察先 鹿児島県大島郡伊仙町

視察事項 「長寿日本一」「出生率日本一」達成への取り組み

視察者 共産党議員団 高岡朱美 平岡朱

無限21議員団 藤本寿子

日時 2019年 5月28日(火) 5月29日(水)

5月 28日視察



「伊仙町の放課後学童保育」並びに「健康増進施設 ほーらい館」

小学校区を跨ぐ!!

伊仙町担当者 伊仙町役場 子育て支援課課長 福司銀次郎

未来創成課 嘉納寿成

> 「ほーらい館」の案内を、して頂く。

1 運動支援施設として、トレーニングジム、プール、壁面ガラス張りのスタジオ
温浴施設（ドライサウナ、スチームサウナ、大浴場、水風呂）があり、島民の健
康寿命への貢献、また、2 保健センターも併設。

ほーらい館で、開設されている教室に、健康相談 マタニティ教室、にこにこマ
マ、メタボ対策、チャレンジ教室、リフレッシュ教室、らくらく教室

3 癒ていなホール。コンサート、映画、市民の様々な催しものに使われる。

> 伊仙町放課後わくわくクラブにおいて、学童保育の取り組みの状況

伊仙町には、徳之島町に、保育園と併設の「にこにこキッズ」「なかよしトトロ」
「ぺんぎん村」、ほーらい館に「伊仙町わくわく放課後クラブ」西伊仙町には、
「西伊仙児童放課後クラブ」伊仙町 木之香には、NPOが「きのこにじいろク
ラブ」という障がい児通所支援事業所などがある。その他、地域でこどもたちを
短時間預かっているところもあるということ。

<視察感想>

ほーらい館は、若い人もお年寄りも、いろいろな目的で人々が行き交う。ゆるり
とした感じが、この島の感じにぴったりだなあと思った。また、施設がコンパク
トにまとまっており使いやすい感じを受けた。長寿、健康増進に繋がっているの
だと思った。特に保健センターが併設されているところは、様々なメニューを作
りだす元になっているのだと思った、

放課後学童保育については、夏休みなど長期の休みにこどもたちが、どのように
しているか気になった。こちらからの質問のなかで、島民は一度都会に出る人が
多いのかという質問に同席した人、ほとんどが島を一度出たということであっ
た。「すぐ帰ってきました」という答えに、徳之島は、住みやすいのだと思っ
た。また、子育てするなら島でという実感も伝わってくる。



ビシミソ
茶屋 1.610

5月29日(水)伊仙町役場

伊仙町役場 出席者

副町長 稲 隆二

未来創生課課長 久保等 未来創生課 係長 松岡由紀

子育て支援課 主幹 大郷千枝美

伊仙町について

町 伊仙町の3つの町がある。伊仙町は、人口約7千人、基幹産業は、農業で、さとうきび、ばれいしょ、マンゴーやたんかん等様々な作物がとれる。

そのなかでも、さとうきびの生産額 15億6700万円、畜産 18億399

3万円、園芸 21億9221万円 農業所得 50億円目標のまち

町民の雇用形態としては、家庭では、農業をしながら、製糖工場 役場 病院

スーパーなどに勤務。共働きが多い。町長の施策は、小学校区の縮小をおさえる

ことが地域を持続させて行く力になるということである



<出生率 2.81 を支える施策は>

母子保健事業の充実 とともに、もともと 徳之島にある、子供は「宝」という

伝統が地域づくりの基盤になっているところにある。

こどもは、先祖の生まれ変わりという考えが、根底にあるということ

また、伊仙町子育て支援金支給条例、敬老祝い金を子育て支援金へまわす

子育て世代への住宅補助もある、

<長寿日本一>

徳之島の長寿については、食べ物が大きく影響しているのではとの説明があった。まず、飲み水が硬水であること。また、島の特産品である、落花生は、オレイン酸やリノール酸など不飽和脂肪酸を多く含んでいる。コレステロールを下げる働きがある。特に他の食べ物もと同様、徳之島でできた作物は、ビタミンB群、アミノ酸や、たんぱく質を生成する葉酸は、抗酸化作用が強く、徳之島では一般の1.6倍にもなる。美肌効果や老化防止に役立つ。

その他 マグネシウムが全般に高い。βカロチンが高い 鉄分が高い、たんぱく質が高いものが多い。それらが、温暖な気候も加わり、長寿の要因になっているのではないかという説明であった。



<地域力>

- * 集落が約30ほどあり、地域の行事が多く。特にこどもが生まれたときはその家に、次から次にお祝いに行くなど、お年寄りやこどもたちを巡る行事が多く、集落の絆が深い

<現場の視察>

定住化策として町営住宅<阿三地区><阿権地区>の見学をする。

県外からの移住もある。特にこどもを持つ世帯を優遇

また、阿権地区にある小学校での低学年への預かりサポートは、地区の自治会長や、自治会の仲間が見守りをされており、地域力を感じた。

<感想

町の職員の方より、闘牛場のある「なぐさみ館」にも案内してもらった。穏やかな島民の様子から一転して、闘いに燃える島の人々の姿にある種のコントラストを感じ、いよいよ魅力ある町であると感じた、

また、島の経済の基盤が第一次産業であることは、これからの水俣にとって示唆的であった。更に、この地域の力が守られてきた背景には、本土の経済活動、文化から離れ、独特の伝統を持ってきたことが大きく影響していると思った。



旅行報告書

会派名 無限21

会派代表者 田中 睦

令和元年9月24日

旅行者氏名	旅行者氏名
田中 睦	
藤本 壽子	
杉迫 一樹	

下記の用務のため旅行しましたので報告いたします。

- 1 期間 令和元年8月17日(土)から
令和元年8月18日(日)まで

2 旅行先及び用務の概要

旅行先	用務の概要
熊本市総合体育館 ・青年会館 熊本県教育会館	第16回全国地方議員交流研修会

無限21会派 研修報告書

報告者 藤本壽子

日程 令和元年8月17日(土)～18日(日)

研修場所 熊本市総合体育館・青年会館
熊本県教育会館

参加者 田中睦、藤本壽子、杉迫一樹

研修の概要

《8月17日》 全体会

- 1 主催者あいさつ
- 2 来賓あいさつ
- 3 記念講演



「沖縄から考える多様性の力・民主主義の未来」 玉城デニー 沖縄県知事

・この間の基地などをめぐる政治状況と辺野古基地反対運動の経過。他国地位協定調査により他国の地位協定がどうなっているかを示し、日本の地位協定の矛盾を明らかにした。沖縄は、基地に付随した補助金がなくとも十分やっつけられる。

4 問題提起

(1) 「金融危機と民主主義の危機」 坂本正 (熊本学園大学元学長)

・日銀が、株を買い占めた。恐慌が起きても仕方のない状況である。政治が経済を壊している。安倍政権の経済政策は、公平性がなく間違っている。国民への情報公開もなく、国民の認識が薄れており、まともにこの危機を議論することさえできていない。

(2) 「農業とJAと地域環境」 三角修 (菊池地域農業協同組合代表理事組合長)

・JA菊池の取り組みの中から、次の3点を提案された。

- ①自給率が高く、環境負荷が少ない食料品へのポイント付与
- ②生産基盤の確立
- ③中山間地の保全

(3) 「いのちをつなぐ政治を求めて」 嘉田由紀子 (参議院議員)



「もったいない」を提示しライブリーポリティクス(命と生活の政治)を推進した。いのち、福祉優先、反原発、反基地など、物質的豊かさではなく、精神的豊かさを求める考えを基本に置く。嘉田政権時代の成果として、必要性の低い公共事業見直しで8年間に借金900億円を減らし、貯金を300億円増やした。

(4) 本交流研修会の意義と課題について

山本正治（広範な国民連合事務局長）

《8月18日》 分科会、全体会

- 1 分科会
- 2 全体会 (1) 分科会報告
(2) 討 論

分科会の概要

【第1分科会】

「農林漁業の復活で地方再生へ」

【第2分科会】

「急速に進む貧困化、『全世代型社会保障』と自治体財政」

【第3分科会】・・・(3名とも参加)

「『ミナマタ』から『原発事故』まで」

【第4分科会】

「防災と復旧・復興。災害対策、自治体の課題」

【第5分科会】

「米中激突・アジアの共生へ、沖縄が問う自治体の役割」

第3分科会報告

- 1 「水俣は 今」 田中睦・水俣市議会議員
- 2 「活力ある地方創生を目指した地域新電力の挑戦」
磯部達・みやまスマートエネルギー(株)
- 3 「環境を壊し、地域住民の生活を脅かすメガソーラーに
どのように対峙したら良いか？」 中村満雄・元霧島市議会議員
- 4 「命をつなぐ政治を求めて一知事8年の経験から参議院議員へ」
嘉田由紀子・参議院議員

・水俣からは、水俣病を教訓に進められてきた「環境モデル都市」づくりが、チッソの支援を受けて誕生した市長になってから、「水俣病」や「公害」が消されて行く状況になっていることが報告された。

・みやま市からは、エネルギーを基盤にした地域づくりで24億円を売り上げ、57名の雇用、4,500万円の利益をあげ、エネルギーの地産地消を実践しているという報告があった。



・一方、太陽光発電所が山間地に多く建設されている霧

島市では、市の環境破壊を止めるための活動の報告があった。

・最後に、滋賀からは、原発再稼働を受け危険性の予測、避難体制を調査、また、避難体制を作ったが、結局、多重防護できないということに行きついた。そこから、原発に替わる地域エネルギービジョンを策定。環境に負荷のない施策を進めてきたという報告があった。



報告のあと、討論に入り、太陽光パネルの廃棄・処分・リサイクルなどが議論された。

最後に助言者・嘉田由紀子参議院議員から、次のようなまとめがあった。

・水俣もチッソも国策から始まった。水俣に国策企業が戻ってきているのではないか。原発、基地、当事者の住民は、相変わらず蹂躪され続けている。地域から、粘り強く三権分立を取り戻す必要がある。危険な原発の再稼働をやめさせる、基地をなくしていくなど、住民が安心して暮らしていくためには、同時に政治も変える必要がある。

感想

・「他国地位協定調査」を見て、日米地位協定はたいへん不平等な内容になっているということがわかった。例えば、ドイツ、イタリア、ベルギー、イギリスでは、駐留軍に対して国内法の適用を明記している点。日米地位協定では、基地内への立ち入り権もなく、訓練・演習に関して規制する権限はない。事故の際の捜索等もできない。これは沖縄だけのことではない。他人事として捉えてはいけないう。 (田中 睦)

・8月17日から19日の3日間、全国地方議員交流研修会へ参加いたしました。沖縄県知事の玉城デニー氏の講演を拝聴し、沖縄が抱える問題、日米地位協定などの話しや辺野古基地移設問題の話し、特に基地移設の問題では、そこに住む住民のことばかりではなく、サンゴやジュゴンの生息に関わる自然環境問題など、詳しくお聞きしました。

18日は、「ミナマタ」から「原発事故まで」の分科会に参加し、メガソーラーの活用の際し、自然の破壊なく、地域のエネルギーを効率的に回している福岡県みやま市の実績と地域環境破壊の問題に関わる鹿児島県霧島との地域ごとで、全く別の問題が起きているという現状を知ることができました。

また、嘉田由紀子参議院議員による地域エネルギービジョンの滋賀県での取り組みなど、非常に参考になる議論を聞き、それぞれの地域の特色を活かしながら市民の生活を豊かにし、自然環境にも配慮して行くことの大切さを学びました。

19日には、現地フィールドワークとして、水俣にて視察。慰霊碑、水俣病歴史考証館を巡り、水俣病語り部の会の緒方正実会長のお話もお聞きしました。水俣病患者の出生から、これまでの人生の貴重なお話しでした。私自身、水俣病のこれまでの歴史を知る機会となり、一層、水俣病関連の出来事に興味を持ちました。

参加された他の自治体議員との出会いや触れ合いもあり、この3日間は、とても実りあるものとなりました。今回は、勉強不足なことばかりで、聞きに徹していましたが、次からは、私から問題提起や発言ができるよう、環境問題など、諸問題の勉強を重ねていきたいと思いました。(杉迫一樹)

・実行委員会のメンバーだった。現地受け入れがどうなるかと思ったが、会派の仲間の協力を得て、来訪された方も喜んでいただけて嬉しかった。

滋賀の参議院議員・嘉田由紀子さんに学ぶことが多かった。(藤本壽子)

旅行報告書

会派名 無限21

会派代表者 田中 睦

令和元年9月26日

旅行者氏名	旅行者氏名
田中 睦	
杉迫一樹	

下記の用務のため旅行しましたので報告いたします。

1 期間 令和元年8月25日（日）から
令和元年8月27日（火）まで

2 旅行先及び用務の概要

旅行先	用務の概要
障害者の自立と政治参加をすすめるネットワーク東京大会	
千代田区永田町	星陵会館 ・総会、政策的意見交換会
千代田区永田町	参議院議員会館 ・厚生労働省との意見交換
葛飾区 立石	葛飾区男女平等推進センター ・障害者の防災についての意見交換会

無限21会派 研修報告書

報告者 田中 睦

日程 令和元年8月25日(日)～27日(火)

研修場所 東京都千代田区永田町、葛飾区立石

参加者 田中睦、杉迫一樹

研修の概要

《8月25日》 星陵会館(千代田区永田町)

障害者の自立と政治参加をすすめるネットワーク総会、政策的意見交換会

1 全国大会の日程確認

2 会計報告

3 協議

(1) 東京ブロック、九州ブロックの活性化

(2) 次期大会について

(3) 政策的意見交換

・自己紹介及び現地の政策的課題の提供

(4) 討議

◎ 水俣市仮庁舎の昇降手段の設置について現状報告と意見交換

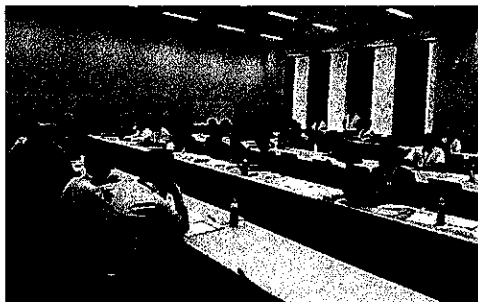
・経費よりやる気、障害者権利条約や障害者差別解消法がある。

・議員活動の保障から必要であり、議会として論議すべき問題。議長名で予算要求するのが筋。



《8月26日》 参議院議員会館(千代田区永田町)

厚生労働省との意見交換会



1 障害者就労支援A型・非雇用型の実態調査の必要性について

・「利用期間の上限を設けること」は、利用者の選択肢を広く確保する観点から考えていない。

2 入院時における重度訪問介護の利用について

・ヘルパーのコミュニケーション支援を言語

障害に限定して捉えられているとの指摘があった。→適切な運用がされるよう周知する。

3 高額障害福祉サービス等給付費等の支給事務の調整について

- ・介護保険優先の考え方を再検討すべき。介護保険対象になっても、障害福祉サービスを利用できるようすべきである。→自治体においては、意向を聴き取り適切に判断する必要があると考えている。

4 補装具(特に靴型装具)に関して、義肢装具士でない靴製作者が提供している現実について

- ・診療の補助として義肢装具士の資格を持つ者でしか補装具費の支給をしないと狭く解釈している。

5 福祉避難所の諸課題について

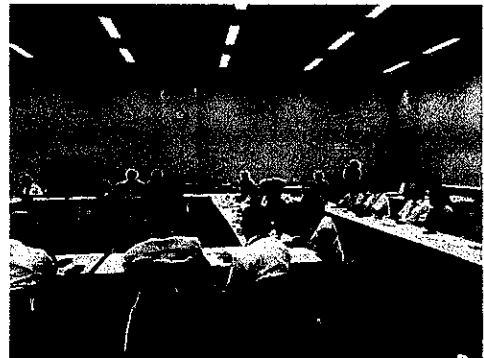
- ・障害者の名簿登録率が低調との指摘に対しては、本人の同意の上で名簿情報を地域で共有することを助言している。緊急時には人命尊重で活用する。

障害者雇用水増し問題についての院内集会

1 厚生労働省からの経過報告

○中央省庁等の障害者雇用水増し問題発覚から今日までの経過と今後の対応

- ・発覚後の採用計画と実績、勤務先の職場環境整備、大量採用に伴う離職者数とその原因と今後の対応、などが報告された。



2 政治ネットからの提言

- ・犯罪的行為であるとの認識を持って、雇用水増しが起きたきっかけと真相究明に努めてほしい。
- ・拙速な法定雇用率達成ではなく、真の障害者雇用政策を進めるべき。
- ・採用後の昇任や研修などの点検を。



3 重度障害者の就労中の介護費用の公費負担について

〈政治ネットから〉

- ・公費負担は基本的には必要なこと

- ・制度創設のための国民理解の醸成
(厚労省から)
- ・通勤支援については話題になっていない。
- ・個々の障害に応じて対応したい。

《8月27日》 男女平等推進センター（葛飾区立石）

障害者の防災についての意見交換会

司会：村松勝康 葛飾区議会議員

回答：長谷川豊 葛飾区危機管理課長

川上鉄夫 障害福祉課長



- 1 障害者への避難経路支援対策について
 - ・「避難行動要支援者名簿を活用した支援の手引き」平成27年11月作成
日頃の声かけ・見守り活動で顔の見える関係づくりを。
- 2 福祉避難所について
 - ・区内67箇所に設置。女性に配慮。
- 3 災害時要配慮者対策の現状と課題について
 - ・要配慮者名簿は町会長に配付。消防には全員分渡してある。まずは隣近所で。
- 4 地域防災マニュアルの策定について
 - ・葛飾区自治町会連合会で「地域防災マニュアル 地震編・水害編」を作成。
- 5 震災復興まちづくりの訓練、震災復興マニュアルの概要、成果と課題について
 - ・葛飾区において大地震による甚大な被害が生じ、震災からの復興を進めなければならぬ事態に備えて、その手順を示した「震災復興マニュアル」を作成している。
- 6 災害時における特別相談に関する協定について
 - ・社会福祉施設等33事業所と要配慮者の受け入れ等で協定を結んでいる。弁護士や行政書士からの協力もある。

《感想：杉迫一樹》

今回「障害者の自立と政治参加をすすめるネットワーク」に初参加しました。これは、障害を持つ地方議員を中心に活動するグループで、同じように障害を持つ地方議員や関係者の方々との新しい出会いがありました。

25日の総会にて、それぞれ自己紹介と各地域での問題点などを紹介しましたところ、私が紹介した問題点を議題として取り上げていただき、たくさんのアドバイスをいただきました。その他、参議院会館にて雇用水増し問題や葛飾区役所の防災についての意見交換などに参加しました。

私が一番印象を受けたことは、皆さんそれぞれ自分の意見をしっかりと持っており、障害者である自分を認めながら、できないことはできないと諦めるのではなく、できるように社会の認識を変えたいという強い気持ち、当事者にしかわからないこと、伝えられないこと、訴えられないことを強く主張しておられた姿でした。私自身、これまで「自分の障害の為に誰かに迷惑がかかるのならば」と諦めて生活していた部分がありましたが、皆さんの姿と行動を目の当たりにして、遠慮しなくていい、社会の障害者への認識を変えることで全ての人が幸せになれるということに改めて気づかされました。

これからも自分の障害と経験とを照らし合わせながら、水俣のためにできることを考え、行動していこうと思います。とても実りある研修となりました。

旅行報告書

会派名 無限21

会派代表者 田中 睦

令和元年11月26日

旅行者氏名	旅行者氏名
田中 睦	
藤本 壽子	
杉迫 一樹	

下記の用務のため旅行しましたので報告いたします。

1 期間 令和元年10月21日(月)から
令和元年10月22日(火)まで

2 旅行先及び用務の概要

旅行先	用務の概要
熊本市中央区辛島町	自治体議員団九州ブロック会議活動交流集会

無限21会派 研修報告書

報告者 田中 睦

日程 令和元年10月21日(月)～22日(火)
研修場所 熊本市中央区辛島町4-39 ネストホテル熊本
参加者 田中睦、藤本壽子、杉迫一樹(21日のみ参加)

研修の概要

《10月21日》

- 1 開会行事
- 2 講演 「辺野古米軍基地建設のための埋立て賛否を問う県民投票について」
宮城一郎・沖縄県議会議員
- 3 記念講演 「参議院選を終えて、これからの国政に臨む姿勢について」
吉田忠智・参議院議員

《10月22日》

- 1 分科会
- 2 全体集会 ①分科会報告
②集会宣言
- 3 閉会



分科会の概要

【第1分科会】

- | | |
|--------------------|-----------|
| ① 参議院選挙の取り組みについて | 照屋大河・沖縄県議 |
| ② 指定管理者制度と人員合理化の結末 | 松田浩一・宮崎市議 |
| ③ 石木ダム反対闘争について | 坂本 浩・長崎県議 |
| ④ 公共交通問題について | 松永憲明・佐賀市議 |

【第2分科会】

- | | | |
|--------------------------------|------------|-----------|
| ① 駅無人化と無人化に伴う遠隔案内システムに反対する取り組み | 守永信幸・大分県議 | 甲斐高之・大分市議 |
| ② 指定管理者制度の宮崎市立田野病院 | 徳重淳一・宮崎市議 | |
| ③ 公共交通問題について | 田上辰也・熊本市議 | |
| ④ 福津市議選の取り組み | 石田まなみ・福津市議 | |

【第3分科会】・・・田中睦参加

- ① 宮古・石垣への自衛隊配備・弾薬庫建設に反対する闘い
亀濱玲子・沖縄県議
- ・2015年、宮古島への自衛隊配備建設計画は、生活用水のすべてを地下水に頼る宮古島にあっては「命の水を守る」ために地域住民と市民が反対運動を続け、建設計画断念を勝ち取った。
 - ・2016年、千代田地区への駐屯地建設にあたり、住民説明会において「弾薬庫の整備はしない」と明確に否定した。しかし、千代田地区に置かれた宮古島駐屯地

に弾薬庫が整備され、中距離多目的誘導弾や迫撃砲を保管していたことが発覚した。

- ・2019年10月、千代田から保良地区への弾薬庫移転工事に着手。住民説明会での資料には「弾薬庫」の文字がないことから、住民は正確な形での説明会を開くよう要求した。「住民合意のない強引な工事は中止すること」を要請した。

② 交通政策について

平山貴久・鹿児島市議

- ・交通施策の基本理念と基本方針

基本理念：公共交通を活かした 歩いて楽しむ緑のまち “かごしま”

基本方針：利便性・効率性の高い、持続可能な交通体系の構築

安全・快適で、人と環境にやさしい交通環境の整備

特色ある公共交通を活かしたまちづくりの推進

○意見交換の中で、どこでも運転士の確保に課題があることが述べられた。

③ 放課後児童クラブの課題について

永田秀人・佐世保市議

- (1)現在の状況：2014年に同一校区でのクラブ分割を進めて以降、放課後児童クラブの待機児童対策が注目されるようになり、市も設置済み校区でのクラブ増設を進めるようになった。2019年4月現在、クラブ総数は73となった。

(2)今後の課題

- ・支援員の待遇改善：放課後の活動ということで、勤務時間が他の職種に比べて短時間になる。そのため、賃金の低さや社会保険への加入のハードルにつながり、人材の確保・定着の面で問題がある。



(3)利用料の統一及び適正負担の実現

- ・利用料については各クラブの判断に任せられた結果、利用者負担のばらつきが放置されたままになっている。クラブで働く支援員の待遇改善のためにも議論が必要である。

④ 日頃の議員活動について

西岡誠也・熊本市議

- (1)議会報告
 - ・職場：市役所と出先機関・交通・水道・消防・県事務所 8000部
 - ・地域：6500軒(後援会2000、西岡3500、組織1000)
 - ・郵送：市内一円2500部

(2)地域活動

- ・自治会・体育協会・交通安全協会・社会福祉協議会・老人会・交通整理など多岐にわたる。

(3)後援会活動

- ・総会・女子会・夏の集い・対話集会(年1回、7~8か所)・グラウンドゴルフ大会・ゴルフ大会など。

(4)組合との連携

- ・毎日8時15分に市役所出勤、組合事務所での意思統一。

【第4分科会】・・・藤本壽子参加

- ① 性的少数者への支援の取り組み 匹田久美子・臼杵市議
- ・報告者の匹田議員は、県の人権講師をしており、多様な性を尊重する社会であって欲しいということで活動を続けてきたとのこと。
 - ・臼杵市の対応は、書類の性別欄についてその必要性の調査を始めるとのこと。一般質問などでの回答として、市職員に研修を実施すると約束

- ② 母子支援センターの取り組み 大庭キミ子・朝倉市議
- ・2017年の九州北部豪雨で被災した母子の現状をみて早急な立ち上げが必要と、なんと1か月後に開設。併設した産婦人科医院を活用。当時は、女性ボランティア約60人が24時間対応した。現在も、「朝倉災害母子支援センターきずな」には、全国から視察者が来訪している。

《感想》

女性議員の特性をいかした、人権を守る取り組みに感動。水俣市でも施策として考えて行きたい。

- ③ オスプレイ配備反対の取り組み 徳光清隆・佐賀県議
- ・自衛隊が購入するオスプレイ17機を佐賀空港に配備する・佐賀県の目達原駐屯地のヘリコプター50機を佐賀空港に移設する。そのため、佐賀空港の西側の土地30ヘクタールを購入し、関連施設を建設。配備する部隊は、700人から800人。
 - ・まず、オスプレイは欠陥機である。また、この配備により、集団的自衛権行使をも見据えた九州全体の軍備増強となるし、佐賀空港は全国有数の軍事基地になる。今後の阻止のための行動としては、漁協や漁業者に反対のための動きがとれるよう支援する。

- ④ 反原発の取り組み 遠嶋春日児・鹿児島県議
- ・テロに備えた「特定重大事故等対諸施設」(特重施設)を5年以内に配備しなければいけないという規制委員会の審査を受け、1号機は2020年3月に、2号機は2020年5月に配備しなければならないということになっているが、とても間に合いそうにない。それについてどう思うか知事に質問。
 - ・また、この費用は、9千億円かかるとのこと。更に、使用済み核廃棄物が今後満杯になり、貯蔵の方法を乾式にする場合、15年間格納庫のない状態になる。事故が起これば日本の半分が住めなくなるが、ということも知事に質問した。稼働させないという明確な答えなし。

《感想》

軍備拡大も原発の再稼働容認も、この先、日本の未来を明るくするものはない。政策の転換が必要である。水俣が原子力災害にあった場合、取り返しのつかないことになる。

旅行報告書

会派名 無限21

会派代表者 田中 睦

令和2年2月21日

旅行者氏名	旅行者氏名
田中 睦	
藤本 壽子	
杉迫 一樹	

下記の用務のため旅行しましたので報告いたします。

- 1 期間 令和2年2月12日（水）から
令和2年2月14日（金）まで

2 旅行先及び用務の概要

旅行先	用務の概要
岡山県岡山市	岡山市役所 ・ SDGs未来都市の取り組みについて ・ 手話言語等の普及及び理解の促進条例について
兵庫県姫路市	姫路市役所 ・ 職員提案制度について

無限21・誠心会行政視察報告書

報告者 田中 睦

日程 令和2年2月12日(水)～14日(金)

視察場所 岡山県岡山市役所
兵庫県姫路市役所

参加者 無限21：田中睦、藤本壽子、杉迫一樹 誠心会：瀧上茂樹

視察の概要

1 SDGs未来都市の取り組み

(1) ESD・SDGsの経緯

※ESD：Education for Sustainable Development

(持続可能な社会づくりのための教育)

2005年 市民や事業者の自主的な環境保全活動を支援する「岡山市環境パートナーシップ事業」をスタート

2005年 岡山ESD推進協議会を設立し、「岡山ESDプロジェクト基本構想」を策定

2014年 ESD推進条例(えーものを子孫の代まで条例)制定
ESDに関するユネスコ世界会議開催

2015年 「岡山ESDプロジェクト2015-2019基本構想」策定
2015-2030持続可能な開発目標(SDGs)

2018年 「SDGs未来都市」に選定

(2) 岡山市ESDプロジェクト

○目的：持続可能な社会の実現に向け、共に学び、考え、行動する人が集う地域づくり

・活動団体が48(2005年)から303(2020年)に増加

(3) SDGs未来都市 岡山

◎テーマ：誰もが健康で学び合い、生涯活躍するまちおかやまの推進

○地方創生交付金を活用し、健康づくり事業を推進

・AIを活用した健康見える化事業

・「おかやまケンコー大作戦」などを展開

2 手話言語等の普及及び理解の促進条例について

(1) 条例制定の背景

- ・平成 23 年 「障害者基本法」において、手話は言語であると規定
- ・平成 26 年 「手話言語法」の制定を求める意見書を採択
- ・平成 29 年 2020 年開催の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画」を策定

○このような動きをとらえ、手話を言語と認識し、手話をはじめとするコミュニケーション手段を普及し、理解を促進するため本条例を制定した。

- ・合理的配慮の一環として、明石市を参考にして条例を制定

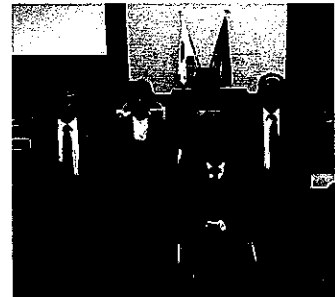
(2) 条例の目的とポイント

○条例の目的

- ① 手話を言語として位置づけ
- ② 手話等の普及、理解の促進
- ③ 情報の取得や環境を整備するための施策を総合的、計画的に推進

○条例のポイント

- ① 基本理念を定めるとともに、市、市民及び事業者の責務を明らかにし、普及及び理解に取り組む。
- ② 施策の推進方針を策定して総合的、計画的に推進する。



(3) 主な取り組み

① 手話通訳者の設置

- ・聴覚障害者等への窓口業務に対応できるよう、手話通訳者を設置している。

② 手話通訳者・要約筆記者の派遣

- ・公的機関での手続きや医療機関での受診がスムーズにできるよう、聴覚障害者等を対象に手話通訳者の、中途失聴・難聴者等を対象に要約筆記者の派遣事業を行っている。

③ 市職員への手話研修等の実施

- ・主に窓口業務で聴覚障害者等と接する機会のある職員を対象に、手話研修を実施している。新規採用職員研修の中に手話等に関する講義を取り入れ、理解を深めている。

3 職員提案制度について

(1) 制度導入の経緯

- 昭和 42 年 職員提案規定を制定
- 平成 13 年 「カイゼン実行提案」の試行運用
- 平成 16 年 旧規定を廃止し、現規定を制定

(2) 制度の趣旨

職員の提案活動を通じて、研究心や職務意欲を高めるとともに、行政運営への職員の参画、行政運営効率の向上等を目指す。

(3) 提案の種類

① カイゼン報告

カイゼン(自己の業務の改善で、実際に行ったこと)に関する実施結果の報告

② アイデア提案

職員の創意に基づく、具体的かつ実施可能な事務事業の改善に関する提案

(4) 提案の着眼点

① 経済効果がある

- ・経費、作業時間、人員配置の削減
- ・収入の増加

② 行政効果が增大する

- ・市民サービスの向上
- ・事務及び作業能率の向上等

(5) 令和元年度の目標

1課4カイゼン、年間800件

(6) 経費

平成30年度 813,308円(褒賞費:図書カードや文具)

(7) 経済効果

平成30年度 284,839千円

(8) 提案活動を促す取り組み

① 表彰制度

- ・最優秀賞、優秀賞、優良賞は市長表彰を実施(年4回程度)
- ・カイゼン報告件数上位5位の所属は市長表彰を実施

② 業務改善の意識づけ

- ・カイゼン発表会の開催
- ・職員向け広報誌への掲載
- ・局長会議等において周知

